

特別活動が児童・生徒に及ぼす学習効果

—運動会に着目して—

平尾 真祐 (生涯スポーツ学科 学校スポーツコース)

指導教員 柴田 俊和

キーワード：学習指導要領，運動会，学習効果

1. 緒言

特別活動は、普段教室で学習するような内容とは異なり、児童一人一人が様々な集団の中で活動していく。また、学習指導要領にも、「望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、自己の生き方についての考えを深め、自己を生かす能力を養う。」と示されている。

しかし、運動会は、児童にとって年に1回行われるただの楽しいイベントとして捉えているため、学習指導要領に記されていることが身につけていないのではないかと思った。

そこで本研究では、本学の学生にアンケート調査を行った。その結果から運動会を通しての学習効果を明らかにすることを目的とした。

2. 研究方法

本研究の調査対象者を、本学の1回生 316名とした。学生には、選択記述式のアンケート調査を行なった。運動会を通して友達と仲を深めることができたか、協力することができたか、多くの児童と交流することができたか、などを明らかにしようとした。

3. 結果と考察

アンケートの調査結果から、運動会は、子ども達にとって楽しい行事だということが明らかになった。その中で、リレーや組み体操、応援合戦などといった集団で取り組む種目は数多くの友達と関わることができる。また、それらの種目はお互いに競い合うことで、自身の能力の向上にも繋がり、さらに仲間との協力をす

ることができ、集団の中で人間関係を築いていくことができると言える。

運動会を通して、以前よりクラスが明るくなったり、積極性が見られるようになり、全体に活気が見られるようになることが明らかになった。そして、自身が学校生活の中で積極的にになり、運動会を通しての活動が、授業中や普段の生活に活かされたと考えられる。

4. まとめ

運動会は、子ども達が楽しく活動することによって、集団の中で友達と協力し、人と交流することができるなど多くの友達と関わることのできる場である。また、運動会を行うにあたって、集団での活動を取り入れると仲間と協力できることがわかった。つまり、集団の中で人間関係を築くなどの学習効果が狙えることが明らかになった。

運動会以降の学校生活でも、運動会を行ったことで、友達の新たな発見や自分への自信にも繋がり、自身が学校生活の中で積極的に取り組むようになることが明らかになった。つまり運動会を経験することで、より学校生活が豊かになって充実した生活を送ることができるようになることが明らかになった。

引用・参考文献

1. 谷釜了正(2015)「体育的行事の成立と発展」, 21世紀スポーツ大辞典, 大修館書店, pp.558-559.
2. 文部科学省(2008) 小学校学習指導要領解説 特別活動編, 東洋出版社, pp.8-103.
3. 文部科学省(2010) 生徒指導提要, 教育図書, pp.32-42.